

9. 生命倫理と宗教をめぐる課題と展望

1. 宗教的言説の再検討
2. テクノロジーに対する批判的洞察
3. 安易な還元論に対峙できる人間論の提示
4. 他者性の認識

53

宗教的言説の再検討

- 「生命」「生命の尊厳」とは何か
- 宗教的伝統を、科学を含む多元的価値の中で再評価する必要がある。
- 比較宗教倫理学(comparative religious ethics)の視点の必要性

54

テクノロジーに対する批判的洞察

- テクノロジーは価値中立的ではない。テクノロジーが有する両義性(プラス面・マイナス面)を認識する必要がある。
 - 「リスク社会」について
- 人間の欲望とテクノロジーの無限上昇のスパイラル構造を、どのようにコントロールするのか。

55

安易な還元論に対峙できる人間論の提示

- 自己決定権がもつ危うさ
- 遺伝子還元主義の拡大
 - 新たな優生思想への警戒
- 「わたし」は何者か、という問い
 - 身体的同一性？
 - 記憶における同一性？

56

他者性の認識

- 他者の「他者性」をどのように認識するのか。
 - 絶対他者としての神(他者性の起源)
- 他者認識を欠く者は、他者を従属・同化させようとする。

57

社会倫理の諸問題

1

社会倫理の射程

- 差別・人権にかかわる問題
 - 人種・民族差別
 - 身体的差異による差別
 - 性差別
 - 宗教差別

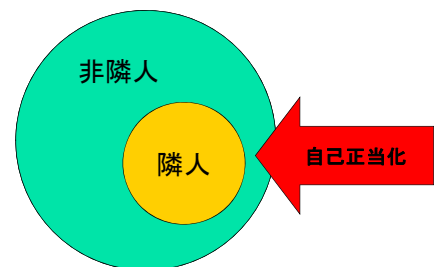
2

キリスト教的実践の根拠としての隣人愛

- キリスト教社会倫理を基礎づける聖書という言葉(別紙参照)
 - 「隣人を自分のように愛しなさい」
 - 「隣人とは誰か」
 - 「最も小さい者の一人にしたのは...」
 - 「最も小さい者こそ、最も偉い者である」

3

「隣人」の解釈



4

差別を正当化するために利用(悪用)された根拠の例

- 創造の秩序 (Schöpfungsordnung)
 - 結婚・家族・民族・国家などの既存の社会的関係は神によって定められており、キリスト者であるかどうかを問わず、すべての人間に当てはまると考えられた。
- 自然法 (the natural law)
 - ギリシアのストア学派に始まるが、体系化されたのは中世。自然的基準を「法」概念によって説明する。

5

<キリスト教社会倫理を基礎づける聖書の言葉>

■彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」(マルコによる福音書 12:28-31)

■すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるのでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」(ルカによる福音書 10:25-37)

■「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渇いたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渇いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢に

おられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」(マタイによる福音書 25:31-46)

弟子たちの間で、自分たちのうちだれがいちばん偉いかという議論が起きた。イエスは彼らの心の内を見抜き、一人の子供の手を取り、御自分のそばに立たせて、言われた。「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」(ルカによる福音書 9:46-48)

<性理解をめぐる新約聖書内の矛盾>

■そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男と女もありません。
(ガラテヤの信徒への手紙 3:28)

■妻たちよ、主を信じる者にふさわしく、夫に仕えなさい。(コロサイの信徒への手紙 3:18)

※前者は男女の支配・服従の関係を否定しているが、後者はそれを強化している。

■しかし婦人は、信仰と愛と清さを保ち続け、貞淑であるならば、子を産むことによって救われます(テモテへの手紙一 2:15)

■「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。」しかし、イエスは言われた。「むしろ、幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人である。」(ルカによる福音書 11:27-28)

※前者は、性と生殖とが一致した家父長制社会を代弁する言葉であるのに対し、後者はそれを破棄する。

<同性愛差別の正当化のために用いられてきた聖書箇所>

■正しくない者が神の国を受け継げないことを、知らないのですか。思い違いをしてはいけません。みだらな者、偶像を礼拝する者、姦通する者、男娼、男色をする者、泥棒、強欲な者、酒におぼれる者、人を悪く言う者、人の物を奪う者は、決して神の国を受け継ぐことができません。(コリントの信徒への手紙一 6:9-10)

■すなわち、次のことを知って用いれば良いものです。律法は、正しい者のために与えられているのではなく、不法な者や不従順な者、不信心な者や罪を犯す者、神を恐れぬ者や俗悪な者、父を殺す者や母を殺す者、人を殺す者、みだらな行いをする者、男色をする者、誘拐する者、偽りを言う者、偽証する者のために与えられ、そのほか、健全な教えに反することがあれば、そのために与えられているのです。
(テモテへの手紙一 1:9-10)

■それで、神は彼らを恥ずべき情欲にまかせられました。女は自然の関係を自然にもとるものに変え、同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうしで恥ずべきことを行い、その迷った行いの当然の報いを身に受けています。(ローマの信徒への手紙 1:26-27)